

## 中村 雨紅



▲昭和31年ころの雨紅

夕焼け小焼け（大正8年作）

夕焼け小焼けで 日が暮れて

山のお寺の 鐘が鳴る

お手々つないで 皆帰ろ

鳥と一緒に帰りまじょう。

子供が帰った 後からは

円い大きな お月さま

小鳥が夢を 見る頃は

空にはキラキラ 金の星。

『中村雨紅詩謡集』より

## 雨紅のおいたち

「夕焼け小焼け」という童謡を知っていますか。市内では夕方になるとどこにいても耳にするあのメロディーです。この童謡の詩を書いたのが、中村雨紅です。

中村雨紅は、明治30年（1897）2月6日、宮尾神社宮司であった父高井丹吾、母・シキのもと東京府南多摩郡恩方村上恩方の宮尾神社の社務所で生まれ、宮吉と名づけられました。ですから雨紅



▲ 日暮里時代の雨紅（写真中央）

の本名は高井宮吉といます。明治42年

（1909）に上恩方尋常小学校（現在の恩方第二小）を卒業し、明治44年（1911）恩方村報恩高等小学校を卒業、その後大正5年（1916）に東京府立青山師範学校を卒業して、この年に東京府北豊島郡日暮里町第二日暮里小学校の教師になりました。大正6年（1917）、雨紅が20歳のとき、おばの家である中村家の養子になりました。その翌年、日暮里町第三日暮里尋常小学校に転勤となります。

師範学校で学び、教育の理想を持って教師になった雨紅でしたが、子どもたちの現実の姿はすさんだものでした。貧しい家庭の子どもが多く、子どもたちが店先から食べ物を盗んだり、授業中いなくなったり、教室に窓から土足で出入りしたりする姿を見た雨紅は、子どもたちに道徳心や豊かな感受性と自己表現力を育てる情操教育の必要性を感じました。そしてこの頃から学級文集を始めるとともに、童話を書き始めたのです。

## 夕焼け小焼けの誕生

大正時代の中ごろには、「子どもたちに芸術性の高い童謡や童話を」という意識が高まり、『赤い鳥』や『金の船』（後に金の星）などの児童文芸雑誌が生まれます。雨紅の作品もこの『金の船』に、大正10年（1921）高井宮のペンネーム（文章を書くときに使う名前）で、童謡「お星さん」などがのりました。特に童話「お別れの先生の話」は野口雨情（童謡詩人）などにとってもほめられました。しかし、童話を書くことは勉強を教える邪魔になると校長に叱られ、雨紅は道を歩きながら考えられる童謡づくりに専念するようになりました。

ところで、中村雨紅というペンネームには、養子先の「中村」という姓と、野口雨情のように偉くなりたいと「雨」を一字もらい、「紅」はそれに染まる、似かようという思いが込められています。大正12年（1923）に「夕焼け小焼け」が発表されました。ところが

その楽譜は世の中にでまわる前に、関東大震災のため灰になってしまったのです。わずかに残った13部ほどの楽譜が、人から人へと歌い広められていきました。

雨紅は仕事から帰るとき、八王子駅からふるさと恩方までの約16kmの道のりをいつも歩いて帰りましたので、途中で日が暮れていくこともよくありました。「夕焼け小焼け」は、そんなふるさとへの帰り道、夕暮れ時の山里を歩きながら、幼い頃の山国の景色やなつかしさなどの感傷も加わり作られたそうです。

この年雨紅は、漢学者だった本城問亭の次女千代子と結婚しました。中村家との養子縁組も解消し、名前も高井に戻ります。大正13年(1924)には長男の喬が生まれました。大正15年(1926)日本大学高等師範部を卒業後、神奈川県立厚木実科高等女学校の教師(現在の県立厚木東高校)となりました。雨紅は東京から厚木に引っ越し、昭和2年(1927)、長女緑が生まれました。厚木に移ってからの雨紅は、童謡・詩などをつくり続けますが、高校の国語教師として昭和24年(1949)に退職するまで、本名の高井宮吉で通しました。

## 晩年の雨紅

昭和31年(1956)雨紅の60歳の還暦を祝い恩方村の有志が宮尾神社境内に「夕焼け小焼け」の碑をたてました。その後、恩方の観栖寺・宝生寺・興慶寺・浄福寺・心源院に「夕焼け小焼け」ゆかりの碑や鐘などがつくられ、作曲者草川信の故郷である長野県の各所にも碑がたてられています。昭和45年(1970)には、雨紅がどうしても心残りだと、興慶寺に「ふる里と母と」の碑を建てました。

昭和46年11月、雨紅は神奈川県立厚木病院に入院し、翌年5月8日、75歳で亡くなりました。雨紅は生涯、ふるさとをメインテーマに童謡や詩を作り続け、今でも多くの人々にうたいつがれています。

ふる里と母と (昭和40年作)

今も帰ればふるさとの

岡に残るよ傘松よ

村のはずれの閻魔堂

ネンネコ サラサラ トントロリ

川の瀬音も子守唄。

おいしいそうでも蛇苺

きれいな実でも牛殺し

その葉取るなよ実を取るな

いつもやさしくあたたかく

今も聞える母の声。

『中村雨紅詩謡集』より

## 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。

\*最初にかいてある数字は、本の背表紙についている分類（ラベル）番号です。

\*☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

- 21-28 夕焼け小焼け 中村雨紅の足跡<sup>あしあと</sup> 厚木市立中央図書館/編 1990年  
中村雨紅にまつわる話が詳しく書かれている。雨紅が作った校歌・園歌・音頭<sup>おんど</sup>などの作品概略一覧や年譜あり。
- 21-28 夕焼け小焼け（パンフレット） 白井禄郎・緑/編 1999年  
雨紅について簡単に紹介。作品の紹介や年譜あり。
- 21-28 物語 夕焼け小焼け 依田信夫/著 2001年  
雨紅だけでなく、夕焼け小焼けの作曲者である草川信についても書かれている。物語調で詳しく書かれている。
- 21-28 詩魂 恩方に育まれて（パンフレット） 八王子市中央図書館/編 1997年  
雨紅の年譜と恩方の雨紅ゆかりの碑などの所在図あり。
- 21-28 追想 中村雨紅 八王子市中央図書館/編 1986年  
中村雨紅をしのぶ会座談会の記録。雨紅にまつわる話が話し口調で書かれている。参考文献あり。
- ☆21-29 郷土みてある記 八王子市生活文化部広報課/編 1995年  
小学校の先生が、八王子の歴史や、関係の深い人物や動植物、事柄を小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

### 中村雨紅が書いた本

- A-ナ 『夕やけ小やけ中村雨紅詩謡集』 1971年
- A-ナ 『中村雨紅詩謡集』 1971年
- A-ナ 『抒情短篇集 若かりし日』 1975年
- A-ナ 『中村雨紅 お伽童話 第1集～第3集』 1985年
- A-ナ 『中村雨紅 青春譜』 1994年

中村雨紅

**参考文献を所蔵している図書館 ※2015年12月現在**

表の中の○は貸出もできるもので、△は見たり、コピーしたりできます

タイトル	所蔵図書館					
	中央	生習	南大沢	川口	北野	みなみ野
夕焼け小焼け 中村雨紅の足跡	○					
夕焼け小焼け (パンフレット)	△					
物語夕焼け小焼け	△					
中村雨紅生誕百年記念展 詩魂 恩方に育まれて	△					
追想 中村雨紅	○	○	○	△	△	△
郷土みてある記	△	△	△	△		